



スルコレブチア属



ディスコカクタス・ホルスティ



ヘリオサ



紅鷹



三光丸



姫春星



菊水



月宮殿



影清

置き場所は、暖かくて、夏、冬とも3時間程度、ガラスや薄いカーテン越しに日の当たる場所が良い。直射日光や湿気は避ける



●「緑と暮らそう」のバックナンバーは本誌ホームページで見られます。ネコ太・チュウ太も活躍していますよ! お気楽Life、今まで身に着けた衣装やかぶり物、たくさんのもだち……かわいい姿が満載です。「読売ライブ」で検索してみてください。

咲きません。※水やり間隔はサボテン、または鉢の大きさによって調整を。生育期、休眠期が異なる品種もあります。
【日光は好きだけれど……】
日当たりが良く、目に付きやすい室内がベスト(水やり頻度が少ないので忘れやすいように)。外なら雨が当たらない場所を選びましょう。鉢を動かす時は、日の当たる向きが変わらないように気を付けて。鉢を回転させ、急に日が当たるようになると、地肌が茶色く日焼けしてしまいます。特に、5、10月は太陽が低く、日光が斜めから入りやすいので要注意。向きを変える時は、毎日、少しずつ回転させると良いでしょう。



上手に育てればきれいな花が咲く。コツは、冬の休眠期(12~2月)に水を切って、乾期のような環境を作ること

1年を通じての適切な水やりが大事。生育期は鉢底から水が流れ出すほどたっぷり。夏は夕方、冬は午前中に球体に軽く水をかける(霧吹きなどでもOK)。夏の日中に水を与えると、鉢の中が高温になり、根が傷んでしまうので絶対にダメ



サボテンの花を咲かそう

サボテンは、砂漠に生えている、水やりは要らない、花なんか咲かない……。そんな風に考えていませんか? 実は、大間違い。上手に育てたら、ほら、こんなにきれいな花を咲かせてくれますよ。

【水はけの良い用土を】
サボテンが自生しているのは土漠(乾燥した粘土質土壌で、ある程度の雨が降る雨期がある)。乾燥しきった砂漠ではありません。用土に砂を使うのは古い栽培の方法です。
日向石小粒4・赤玉小粒5・腐葉土(またはクツギバーク)木の皮の堆肥)1の割合で配合し、水はけの良い土を作ります。植え付け時に緩効性肥料(マグアンプKなど)を入れておけば、追肥は必要ありません。水を与えがちな人は、腐葉土や赤玉を減らし、日向石を増やして、さらに水はけを良くすると失敗が少ないでしょう。市販のサボテン用土を使用しても構いません。

【水やりが成否のカギ】
サボテンは球体の90%が水で、根の弱い植物です。最も大事なことは水やり。水やりが少ないと小さくしぼみ、多過ぎると根腐れを起こします(根から菌が入りやす)。
生育期(3~6、9~11月)は、10日に1度たっぷり水を与えましょう。夏の休眠期(7、8月)は20日に1度、冬の休眠期(12~2月)は25日に1度、球体に軽く水をかけてやります。水やりと水やりの間は、用土をよく乾燥させてください。特に、冬の休眠期に水を切らないと、花は